

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0791100043		
法人名	有限会社タムラ		
事業所名	グループホームはこべ 南棟		
所在地	福島県田村市常葉町常葉字七日市場99番地		
自己評価作成日	平成30年3月16日	評価結果市町村受理日	平成30年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成30年4月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成25年6月開所より、地域の皆さんの中にある事業所として、事業展開しております。地域の行事、幼稚園、小学校への雑巾寄贈、消防検閲後の寄り合い、散歩途中の声掛けや近所の子供さんも時々遊びに来て下さいます。絆を大切に、今後も自己決定の支援、生活スタイルを尊重し、お一人お一人に寄り添う事を大切にし、スタッフ一同歩んで参りたいと思います。

1. 法人では同敷地内に複数のグループホーム及び介護事業所を展開している。各事業所が地域密着型サービス事業所の社会的役割を認識し、地域との交流に積極的に取り組んでおり、地域の行事等への参加や近隣幼稚園との交流等を通して地域住民とは友好関係が築かれている。また、事業所の総合防災訓練時には地域住民の参加もある。
2. 運営推進会議委員は地域の各分野から広く選任されており、協力医療機関の医師も委員となっている。さらにオブザーバーとして消防関係者も毎回会議に参加しており、各委員から様々な意見や提言があり、事業所運営に反映されており、運営推進会議の意義を十分活かした会議となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会の中で、理念について話し合いを持ち、日々理念を認識しながらケアにあたるよう全職員努めている。	「事業所理念」には、利用者が地域の皆さんと一緒に楽しく、ごく普通の生活が送れるよう支援していくことが明記されている。事業所内に理念を掲示し、「全体会議」や「職員ミーティング」等で理念を確認し、全職員が意識を共有して日々のケアで実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の避難訓練等の案内を地域の方に配り、参加して頂いている。また、近隣の幼稚園から運動会、お遊戯会の案内を頂いたり、園児との交流会で事業所訪問を受け入れ、利用者様と交流して頂いた。	事業所は地域との交流に積極的に取り組んでおり、利用者が地域社会とつながり当たり前前の生活であると感じられるように支援している。また、事業所自体が地域の一員として日常的に交流しており、友好関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が町内に買い物に行った際、声を掛けて頂き認知症の方の対応を聞かれる事もあった。いつでも、見学や相談に来て下さるように伝えている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、その時の議題で、会議メンバーの方々より、意見を頂き、サービス向上に努めている。	委員は地域の各分野から広く選任されており、さらに消防職員もアドバイザーとして参加しており、毎回各委員から様々な意見や提案があり、事業所運営に反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	田村市介護相談員の受け入れや介護相談員派遣事業における三者会議に出席し、色々な意見交換をする事が出来た。市の担当者、地域包括支援センターの方とも、日頃より連絡をして協力して頂いている。	行政の担当者とは介護保険制度や利用者の状況等について常に相談し連携している。また市の虐待等防止連絡会の委員として法人役員である保健師、看護師が委託され、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内の全体会で話し合いを持ち、その都度意識しながら身体拘束をしないケアに努めている。また、夜間のみ安全の為、施錠している。	「高齢者虐待・身体拘束について」は全職員を対象に内部研修を重ね、全職員が共通認識のもと拘束のないケアに努めている。「言葉の拘束」についても職員間で注意しあっている。日中、玄関の施錠は無く職員の見守りで対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	田村市虐待等、防止連絡会に委託され、法人役員(保健師、看護師)が出席し、全体会の中で会議の内容を伝え、高齢者虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を必要とされている方が入所された為、市役所職員、地域包括支援センター職員等、関係者と相談しながら活用に至った。本人が不安を感じる事のないよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、十分な説明を行い、納得されるまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とは、日々コミュニケーションを図り信頼関係を築き、また、家族様とは、こまめに連絡して、その都度意見、要望等を伺って、運営に活かせるように努めている。	利用者の意向や要望は日々のケアの中で把握しており、家族に対しては面会時や行事参加時等あらゆる機会を通して広く聴取する体制となっている。把握した意向等は「全体会議」で検討し事業所運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とコミュニケーションを図り、また、全体会等で意見や要望を聞きながら、運営に活かせるように努めている。	管理者を中心に職員の連携が円滑に行われており、日常的に職員の意見や希望を聴取している。また、月1回の全体会では事業所運営やケアの実践等について話し合い、情報の共有をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員の意見を聞き、職員個々の状況を把握し、就業環境の整備に努めている。無資格の職員へ初任者研修にて資格取得、実務者研修にて、介護福祉士受験資格取得等出来るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の業務状況を把握し、事業所内の研修を行っている。外部研修に参加して学んでほしいが、現在の人員では、中々難しい状況である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護相談員派遣事業における三者会議に出席して、意見交換を行ったが、他職員に関しては、交流が少ない状況である。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が納得しないままに入所となり、不安や戸惑いが見られ、職員が利用者様の話しをその都度傾聴して、安心出来るように努めている。強い帰宅願望があったが、少しずつ落ち着き過ぎさせている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困っている事や不安な事を、居室担当者を中心に話しをこまめに伺い、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族様から意見を伺い、その時に必要なサービスを検討している。また、必要があれば他のサービスを受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の出来る事を把握し、野菜の皮むき、洗濯物たたみ、お絞りたたみ、新聞たたみ等を声掛け見守りしながら一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で、利用者様の状態を報告し、一人一人の家族様との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員と馴染みの店に買い物に出かけたり、昔から行かれている美容室に行かれ、関係を継続出来るよう支援している。また、馴染みの方が面会に来られ、ゆっくり楽しい時間を過ごして頂けるように配慮している。	同一敷地内に関連する事業所が複数あり、日常的に施設間の友人等の交流がある。家族とドライブや外食に出かけている利用者もおり、これまでの馴染みの関係の継続ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握して、急に不安になり落ち着かない様子が見られた際は、職員が寄り添い、独りで孤立しないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も、外出先で声を掛けて頂いたり、電話を頂き近況を話したりする事もある。また、野菜を持って来て頂く事もあり、必要があれば相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度、利用者、ご家族様から意向を伺っている。また、認知症が重度になり、意向を伺う事が困難になった利用者様には、職員やご家族様に意見を伺い、本人の意向を推測出来るよう努めている。	担当職員が、日々のケアの中で会話やしぐさ等から利用者の意向を把握している。意向把握が困難な利用者には行動や仕草から本人の思いを汲み取るようにしている。利用者の状況を家族に説明し、家族の希望も取り入れ利用者本位のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族様から今までの暮らしや生活状況等を伺い十分に把握して、その人らしく暮らせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様それぞれの、生活ペースに合わせて過ごせるように職員間で話し合い把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者が毎月モニタリングを行い、三カ月に一度カンファレンスを開き、予定が合えば、家族様に参加して頂き話し合いを行い、現状に合った介護計画を作成している。	利用者の現状把握を十分に行い、実情に即した介護計画を作成している。介護計画は3ヶ月毎に見直しをしており、利用者の状態に変化が生じた場合には、家族、医師、看護師、担当者等で協議し、随時介護計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、業務日誌等記録して、職員間で情報を共有しながら見直し活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の居室担当者は、特に本人、家族様と密に関わり、その時々得た情報を他職員と共有し、支援やサービス提供に活かせるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その季節に応じ、ドライブに出掛けたり、町内の祭り、文化祭等見学に行ったりしている。また、馴染みの美容室、食堂に行き、お店の方と話をされて楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態に合わせ、訪問診療、外来にて受診されている。ご家族様の希望があれば、他医療機関に通院も行っている。また、緊急時は、看護師に連絡して、主治医に報告を行い、対応している。	全利用者が入居時に協力医療機関をかかりつけ医としている。専門医の受診には家族の付添いを基本としているが救急時には職員が同行することもある。受診結果は家族に報告し共有している。また、協力医療機関から月2回の往診もあり、利用者及び家族の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様に変化があれば、職場の看護師に報告して、指示を受け対応している。夜間でも対応出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、病院関係者と連絡を取り、情報交換を行い、また、必要があれば、入院されている医療機関に行き、家族様、病院関係者に話しを伺い対応出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期になった場合は、早い段階に、ご家族様に十分な説明を行い、全職員で利用者様のケアに努めている。	事業所では「重度化・見取りに関する指針」を策定し、利用時に利用者及び家族に説明し同意を得ている。利用者が重度化した場合には医師・家族・看護師・介護職員が十分話し合い家族の要望に添って柔軟に対応している。また、看取り介護を実施しており、全職員が看取り指針を共有して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時に備え、職員で情報を共有して、対応出来るように努めている。また緊急連絡網の確認を行い、緊急時に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の消防署、地域の方に協力して頂き、避難訓練、通報訓練、消火訓練等訓練を重ね備えている。また、その時の反省点、アドバイス等を頂き身につけるよう努めている。	事業所の運営推進会議には消防署職員も出席しており防災意識の向上に貢献している。年1回総合訓練には地域住民の参加もあり、協力体制が築かれている。毎月通報訓練・消火訓練、AEDの使い方、防災機器操作訓練等を実施している。非常時の対応として米・水・缶詰・毛布・衛生品等を備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の生活歴、性格等を本人や家族様等から話しを伺い、情報収集して、本人に合った声掛けや対応を行っている。	全職員が日常生活での会話・入浴・トイレ誘導時等では利用者の尊厳を損なうことのない対応に努めており、内部研修等で利用者の人格の尊重とプライバシー保護を周知している。利用者の個人情報記載の簿冊は施錠可能なキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症が重度になり、伝える事が困難になった利用者様も多くなり、本人の思いを感じるように努めている。こまめに声掛けを行い、自己決定が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせ、レクリエーションを提供したり、無理のないように体操、軽運動、屋内、屋外歩行練習を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様によって個人差はあるが、化粧水を準備して使用されていたり、個々にヘアブラシに名前を記入していつでも使っていたりしている。介助が必要な方には支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	職員見守り声掛けを行いながら、野菜の皮むきや軽作業を行っている。また、食事は、一緒に談話しながら楽しみながら食事をしている。	献立表は利用者の希望や好み等を組み入れ職員が策定している。入居時に利用者や家族から嗜好を確認し参考にしてしている。地域住民から野菜の差し入れが多く、常時季節感のある食事の提供をしており、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の食事、水分の摂取量を毎日確認して水分摂取量が少ない方には、好みの飲み物を提供している。また、必要があれば、一部介助を行い摂取して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個人に合わせて、声掛け見守り、一部介助、全介助等を行い、チェック表を記入して、必ず確認している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便が見られない方には、冷水、冷たい牛乳を提供したり、下剤の量を調整したりしている。早目に声掛け、トイレ誘導を行っている。	現在はほとんどの利用者がリハビリパンツやパットを使用しているが、利用者の排泄パターンを把握し、時間や仕草等からトイレ誘導をして、トイレでの排泄を支援している。便秘対策として朝食には水・乳酸菌飲料などを提供している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表で排便確認を行い、多めに水分を摂取して頂いたり、本人用の下剤を服用して調整している。また、必要があれば腹部のマッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回は必ず入浴出来るように声掛けを行っている。また、利用者様のその日の体調に合わせて無理のないように行っている。入浴出来ない時には、手、足浴を行ったり、状態に合わせて、全身清拭等を行っている。	利用者の希望により入浴できる体制になっており、入浴拒否者には利用者の体調・担当者・話題・時刻を変えながら誘導し入浴に繋げている。利用者の状態によっては清拭・足湯・シャワー浴などで対応している。季節感のあるゆず湯・菖蒲湯等も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に夜間、精神状態不安になり、大声、幻視、幻聴等があった。、入眠出来ない事がある利用者様には、家族様をお願いして側で寝て頂き、安心して入眠される事もある。また、安心出来るような声掛けを行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状況を確認して、変更があれば、申し送りノート、業務日誌に記入して確認を必ずしている。また、看護師に報告して、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれその人に合った役割があり、洗濯物たたみ、お絞り丸め、新聞たたみ、野菜の皮むき等出来る事を継続して支援している。塗り絵が、大好きな利用者様は、毎日楽しみにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様にお願いして、ドライブや外食された方もおられる。また、地域のお祭りを見学して、地域の方と交流する事もある。	好天時には事業所の周りなど散歩や外気浴を楽しんでいる。希望により買い物や馴染み美容室へ外出を支援している。季節ごとに花見・紅葉狩り・地域の祭り等の出かけている。特に幼稚園の行事(運動会等)への参加は利用者にとって一番の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で少額のお金を持っている方もいるが、今は少ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から希望があれば、いつでも電話したり荷物等届いた際は、すぐにお礼の電話を話しされる事もある。また、年賀状が届いた際は、返事を職員と一緒に書いたり、困難な場合は、写真を添えて代筆する事もあった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	わかりやすく目印をしたり、職員と飾りつけをしたりしている。また、季節の塗り絵を掲示して、季節を感じられるように配慮している。	建物の中央に机と椅子の居間エリアがあり、自然の光が差し込み明るい共用空間となっている。また、廊下が広く冬期間には歩行訓練等ができるようになってきている。壁には利用者の作品などが飾られ居心地の良い環境である。利用者世代にはなつかしい歌謡曲や童謡等をBGMで流すなど、楽しく過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで話されたり、気の合う利用者様の居室に行かれたりして、話す事もある。塗り絵の掲示されているのを見て、楽しく話されている事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	本人の馴染みの物を家族様に持って来て頂いたり、塗り絵の作品を飾りつけたり、ひ孫さんからの手紙、写真等を飾っている利用者様もいる。	居室は洋室のみでなく和室(畳敷き)にも対応しており、電動ベット・エアコン・換気扇が標準設置されている。ソファやポータブルトイレは希望により事業所が貸与している。利用者は使い慣れた小箆筍や小物入れなどを持ち込み、各自好みの部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カレンダーは、日めくりで、見やすい物を掲示し、毎日役割りで利用者様にめぐって頂いている。また、居室の扉には、ネームプレートにわかりやすいように記入している。		